

## ● 日本の主な火山活動

口永良部島の新岳では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていない。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はやや少ない状況であった。

地殻変動観測では、2015 年 5 月 29 日の噴火後、特段の変化は認められない。

5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要である。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

西之島では、今期間、海上保安庁が実施した上空から実施した観測では、観測中に噴火は認められなかった。これまでの海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、2013 年 11 月以降、西之島では活発な噴火活動が確認されている。西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口周辺（火口から概ね 500m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも、火山活動の活発化を示す変化が観測され、その状態が継続している。

地殻変動観測によると、2014 年 4 月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、2015 年 4 月頃より鈍化している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

浅間山では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていない。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は引き続き多い状態が続いている。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量もやや多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや活発な状態で経過している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

御嶽山では、火山活動は低下した状態が続き、2014 年 10 月以降噴火が発生していないことから、2014 年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。一方、火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、2015 年 12 月 25 日の噴火後、噴火は観測されていない。

20 日に南阿蘇村中松で震度 1 を観測する火山性地震が発生した。火山性微動の振幅は、概ね小さな状態で経過した。孤立型微動は概ね多い状態で経過した。

中岳第一火口では、2014 年 11 月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要

である。

霧島山（新燃岳）付近を震源とする火山性地震が時々発生した。

GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。また、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられていたが、2015 年 10 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口では、2015 年 10 月以降、噴火は観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。山体の膨張を示す地殻変動はみられていない。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態であった。

火山活動は低下しているが、これまでも噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられる。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、6 日に爆発的噴火が 1 回発生した。また、ごく小規模な噴火が時々発生した。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるため、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

**表 1 1 月 31 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況**  
(※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中)

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、桜島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

\*噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図1 1月31日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

## 各火山の1月の活動解説

### 【北海道地方】

#### 雌阿寒岳めあかんだけ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過している。  
 直ちに噴火に至る兆候は認められないが、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙量は、2015年6月頃以降やや多い状態が続いている。また、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力<sup>1)</sup>の変化は継続している。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 十勝岳とからだけ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。  
 15日に実施した上空からの観測（第一管区海上保安本部の協力による）では、62-2火口や大

正火口の状況に特段の変化はみられなかったが、2015年6月の現地調査以降に確認されている振子沢噴気孔群の地熱域や前十勝の列状の噴気に対応する融雪域が認められており、62-2火口とその周辺では熱活動がやや高い状態が継続していると考えられる。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 樽前山たるまえさん〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。  
 山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。